

茨城県畜産センター
中期運営計画実績評価書
(平成 23 年度から平成 27 年度)

平成 28 年 11 月
茨城県畜産センター
評価委員会

畜産センター 実績評価

【総合評価】 試験研究機関に期待される役割や目標等に照らし合わせ、質・量の両面において着実に取組を実施していると判断できる。	H23	H24	H25	H26	H27	実績評価
	A	A+	A-	A	A	A

【委員からのコメント】

中期運営計画スタートの年は東日本大震災や口蹄疫等の影響などで厳しいものとなったものの、研究員・職員の努力で着実に前進させてきた。特に畜産センターとしての本来業務である試験研究、技術指導、優良遺伝資源の生産・供給に積極的に取り組み、畜産農家からの信頼を得ていることは高く評価できる。

全体マネジメントとして、研究所間(畜産センター、肉用牛研究所、養豚研究所)の連絡体制強化を含む研究推進体制の見直しや、過年度の指摘に対する適切な改善などが計画期間を通じて行われてきたことも評価する。

近年は、国内外において銘柄畜産物の産地間競争が厳しくなっているため、本県産畜産物と他銘柄畜産物等との差別化に繋がる研究成果や技術開発を期待する。

また、畜産業を取り巻く環境には、労働力不足や後継者問題など、課題も多いことから、更なる機能強化を期待する。外部資金の獲得等による予算確保に努めるほか、研究機能強化のためには、研究員の研究力の向上が欠かせないことから、長期の研修や人材交流、共同研究を通じたスキルアップ等についても検討していただきたい。

i) 県民に対して提供する業務

1) 試験研究(完了課題)

年度	研究課題	H23	H24	H25	H26	H27	実績評価
H23	1) 単為発生卵が産出する妊娠認識物質を利用した受胎率向上技術の確立	B					A
	2) 水田における環境負荷を考慮した資源循環型飼料用稲多収生産技術の開発	A					
	3) 酪農における飼料用米の効果的な給与法の確立	A					
	4) 和牛子牛の制限哺乳が母牛受胎率及び子牛の発育に及ぼす影響	B					
	5) 飼料用米の給与が黒毛和種の肥育成績に及ぼす影響	A					
H24	1) メラトニン濃度を指標とした卵巢機能解析法の確立		A				
	2) 家畜ふん堆肥の速効性肥料効果の解明		A				
	3) 畜舎排水処理水における硝酸態窒素等の除去技術及び脱色技術の検討		B				
H25	1) 肥料価値を高める家畜ふん堆肥化技術の開発			A			
	2) 納豆乾燥粉末のプロバイオティクス効果に関する研究			B			
	3) デュロック種の生産性向上のための肢蹄評価確立試験			A			
H26	1) メラトニン濃度を指標とした卵巢機能解析法の確立				A		
	2) 水田作飼料を活用した優良乳用後継牛の効率的な育成技術の開発				A		
	3) 家畜ふん堆肥の速効性肥料効果解明と実用化技術の開発				A		
H27	1) 牛受精卵移植技術を活用した牛白血病ウイルス伝搬防止に関する研究					A	
	2) 地鶏の遺伝子ホモ化に伴う不良形質発現抑制技術に関する研究					A	
	3) 茨城県における黒毛和種繁殖牛の周年放牧実証試験					A	

【委員からのコメント】

全般を通じて、適切に目標設定が行われ、計画期間を通じて着実に成果をあげている。目標に照らし合わせて質・量の両面において着実に取組が実施されていると評価される。特に優良種畜の造成や優良飼料作物品種の育成などで、生産現場での活用や品種登録受理等の成果が出たことは高く評価できる。その一方で、試験結果の再現性や妥当性など、現場応用において求められる種々の要素について、客観的な評価が十分でないところもやや見受けられる。科学的な根拠に基づいた成果となるよう、試験規模やデータの分析と解釈などを確実に進めていくことを期待する。

なお、中期運営計画開始当初は、人事異動の際の引継の不備から目標達成が不十分な終了課題も認められたが、引継方法の改善により研究がスムーズに進むようになり、達成度が向上したように思われる。

評価項目	H23	H24	H25	H26	H27	実績 評価
i) 県民に対して提供する業務						
2) 技術相談・依頼分析	A	A	A	A	A	A
3) 施設利用	A	A	A	A	A	A
4) 技術指導	A	A	AA	AA	AA	AA
5) 成果の普及活用促進	A	A	A	A	A	A
6) 外部人材育成	A	A	A	A	A	A
7) 優良遺伝資源の生産と供給	B	A	A	AA	AA	AA
8) 広報・情報提供	A	A	A	A	A	A
9) 知的財産権の取得・活用	B	A	A	A	A	A
10) 教育活動への協力や地域観光資源としての施設活用	A	A	A	A	A	A
ii) 業務の質的向上, 効率化のために実施する方策						
1) 全体マネジメント	A	A	A	A	A	A
2) 他機関との連携	A	A	A	A	AA	A
3) 外部資金の獲得方針	A	A	A	A	A	A
4) 県民(企業, 農業者等)ニーズの把握	A	A	A	A	A	A
5) 人材育成	A	A	A	A	A	A